

業務用多収穫米 実証実験を報告

JA全農岐阜成果検討会

県内JAが取り組む業務用多収穫米「ほしじろし」の栽培実証実験の成果検討会が、岐阜市宇佐南のJA会館で開かれ、収穫量を増やすのに適した栽培方法を報告した。写真。

JAひだを除く県内6JAとJA全農岐阜の職員、県農林事務所の普及指導員約30人が参加。JA全農岐

阜宮農対策課の河合靖司さん(68)が県内8地域で行った実証実験の結果を説明した。

河合さんは県内の気候に合わせて田植えの時期を1カ月遅らせると、穂数が減少することから、穂数を確保するために植える密度を高めた場合の収量を検証。密度を高めると一部地域の収量増にはつながったが、安定した成果が出ず、経費もかさむため、田植えは標準の密度で問題ないとした。

また肥料の量を増やすと増収効果があったことや、中山間地では平たん地用の肥料が適さず、肥料改善が必要なことなどを発表した。(高橋夏帆)

